令和３年度第２回　南丹市地域創生会議　議事録

■日　時：令和３年８月 11 日（水）午前９時 30 分～12 時 30 分

■場　所：南丹市役所２号庁舎３Ｆ　301 会議室

■出席者

委　員：今井委員、窪田委員、坂本委員、高御堂委員、田中委員、谷口委員、中越委員、野々口委員、藤村委員、俣野委員

事務局：市長公室　船越公室長

市長公室企画財政課　國府課長、片山企画係長、冨部企画係主査

担当部署（ヒアリング対象）：

地域振興部地域振興課　平井課長、大秦課長補佐、下田課長補佐

農林商工部観光交流室　塩見課長補佐、中野係長

■傍　聴：２名

■その他：南丹市情報センターより取材（２名）

1, 開会（事務局）

2. 市長挨拶（西村市長）

一言御礼のご挨拶をさせていただきたい。

地域創生自体については 2014 年、安倍内閣の時に将来的に人口がどんどん大都市に集中して、このままではアンバランスな日本になるから何とかしないといけない、ということで、地域が独自に将来像を見つめながら独創的・先駆的な事業を取り組むことについては、どんどん国も支援するということになった。

私も就任してすぐに、園部公民館や八木公民館のような大型の文化施設を改修するのに財源がない、ということで、内閣府に要望しに行ったことがある。そこで求められたのは「あなたのまちはどういうストーリーを描いているのですか」ということ。その施設をよくすることによって、人の流れがどう変わってくるのか、どう盛り上がっていくのか、と。それをしっかり説明

をして欲しいと言われた。それに対して言葉を尽くして説明したら、満額いただくことができた。
　そういう意味ではやはり地域創生会議、これ非常に大切な場所である。具体的に国が交付金という形で資金を準備してくれて、それぞれのまちにチャンスを与えていただいて、それをどう発展させていくか、というのが、ここにおられる皆様の知恵・力を借りながら市自身がどんなストーリーを描けるかということにかかっていると思う。
　そんな状況の中で、平成 30 年～今年で3年目になるが、会議を8回も皆様にお世話になっている。大体の会議が決まった時間も超えてお世話になっているということで、皆様の豊富な知識や経験、それとこのまちをよくしたいという想いが会議に実際表れてきているだと感じている。一旦任期が切れるわけだが、非常に大事な会議であり、ここに皆様は本当に前向き・意欲的で、南丹市をよくしたいという想いが溢れている方ばかりなので、また来年の4月以降に次期委員の調整を行うが、再度お願いする可能性が極めて高いと思う。何卒嫌な顔をなさらずに、頑張ってまちをよくする為に一緒頑張るという姿勢でお付き合いいただけたらと思うので、宜しくお願いをしたい。
　以上を御礼の挨拶とさせていただく。

窪田委員（座長挨拶）：
　只今、西村市長から大変、丁寧なご挨拶をいただいた。そう言われるとやめるわけにはいかないという気持ちになった。有難うございます。
　委員の皆様におかれましては、夏の暑い時、もうお盆に近い大変ご多忙な時期に全員ご参集をいただき、大変感謝申し上げたい。少し涼しくなってきた印象はあるが、まだまだ暑い中ありがとうございます。7月20日締め切りで事前事業評価も沢山の書類にもかかわらず協力いただき、期限も守っていただいたということで、その点についても深く感謝申し上げたい。
　地域創生の取り組みについては西村市長からのお話にもあったが、第2期に入った。皆様のお力も借りて、南丹市の特色など想いを込めたものがつくれたのではないかと思う次第。ただ、その後新型コロナウイルスというものが来て、私自身としては正直、コロナ禍の流れの中で、そして政権交代もあって、地域創生はどうなってしまうのだろうという思いはあった。終わってもおかしくはないな、と正直少し思っていた。実際には終わることなく今でも続いていて、ポストコロナになるのか、アフターコロナなのか、withコロナが続くのか分からないが。この新しいコロナ禍という条件が加わった社会の中で、やはり地域を切り開いていく、住民自身が地域をよく知り、それを活かし外からも人に来ていただき、この産物を知っていただく。有体に言えば売れる物は売っていく、ということは引き続きやっていくことになるのだろうと思う。
　ということで、今回は交付金事業の評価ということになる。特に地域創生の取り組みの中で国の交付金をいただいているものについて評価をするということ。私が府立大所属ということもあって色んなまちでこういう会議に関わらせてもらっているが、南丹市はダントツに沢山、こういう交付金をとっておられる。とてもよいことだと思う。ただ、それだけにしっかりと評価するということが、社会、あるいはこの交付金を出してくれた国全体への還元ではないかと。

要は、全国で新しいトライにお金出して応援して評価をして検証し、よさそうなものはPRしていく主旨もあってやっているものということ。改めて皆様におかれましては実際問題、私も含めて南丹市に委嘱されている者だから、つい甘い気持ちになりがちだが、一方で日本全体の地方創生の為に評価をしているという視点をもって、どういう狙いをもってやった事業でそれが狙い通りの結果を生んでそうか、ということを皆様のそれぞれの経験、職業上・生活上見聞された情報などを活かして評価していただきたい。併せて、よりよくするためのアイデア提供などもいただけたら。しっかりとした評価を踏まえてまた次の地域創生を推進していけたらと思っている。

　では、かなり今日は長丁場かつ多彩な内容となるが、最後まで皆様のお力を借りて進行していきたい。宜しくお願いいたします。

事務局：

■会議成立報告（全員出席）

西村市長（退席）：

　皆様、大変お世話になる。私も子育てを応援できるまちづくりや、定住できるまちづくり、あるいは産業が振興できるまちづくり、食住一体となったまちづくりなど、色んな言い方があるが、観光面を中心にこの4年間、一生懸命取り組んできたつもり。しかし、やはり農村部・山間部あたりではまだまだこれからと思う。特に南丹市は林業と農業の担い手確保も含めてどのように体質改善していくかというのが非常に難しい課題。それからまちの中も大変寂れてきていると。課題だらけの中で、できることからやっていこうということで、課題は大きいが、皆様方にもぜひ具体的な提案をいただけたら取り組みの指標になっていくと思うので宜しくお願いしたい。次の用事で失礼させていただくが、何卒宜しくお願いする。

4. 議事

※タイムスケジュールの関係で「3. 報告」と順番変更

事務局：

　それでは設置条例第6条第2項の規定により、座長に議長として会議進行をお願いしたい。

委員：

　承知した。本日は大まかには2つ。30分ずつ地域振興課と観光交流室のヒアリングということで、それぞれの関係事業についてより詳しい話を伺う。直接提案をすることもあると思う。その後、令和2年度交付金事業の評価確定という作業を行って、昼までに終了したい。30分はあっという間なので、遠慮せずに色々と質問などしていただけたら。

　ではヒアリングから始めていきたいと思うが、先に事務局から説明をいただきたい。

事務局：
■本日の進行スケジュールについて確認

●ヒアリング①：地域振興課
委員：
　事業実施の実状がどうなっているのか、お尋ねするということ。限られた時間なので、具体的に事業を指定して質問していただくことにしたい。

■4－10　小学校跡施設管理費について（4－9　小学校跡施設利活用推進事業にも関連）
委員：
　数年前の夏に、研究室で1泊2日で主な小学校跡地を回り、取り組みも見せていただいて。提案の方は大したことはできなかったが、実状を拝見できた。今後の展望として何か施設として安定的に利用されていく見通しがあるのか。あるいは、二極化のようなことが起きているのかという心配もある。その辺りどうなっているのか。
　曖昧な質問で恐縮だが、一番最初にこの小学校跡地を地域で活用する、と言われた時の狙いが、数年やってみて上手く実現しつつあると捉えたらよいのか、それとも新たな課題が出てきていると見るべきなのか、担当者は率直なところ、どう感じているのか。

地域振興課：
　小学校跡施設の中で地域活性化センターという形で7施設を地域振興課で所管している。7つの地域は当然画一ではなく、地域性もある。今、地域主体で運営いただいている中で、指定管理という形で施設管理いただいているが、収益もあげていかないといけない。テナントが入っている施設もあれば、あまりないために収益に差が出ているところもある。指定管理は次期更新も含めると3～4年くらいあるが、その切れ目では一定の方向性を出していかなければならない。各施設の指定管理組織でも一定危機感も持っていただいている。組織の横の連携や情報共有はとりわけ今、密にしているところ。収益だけではなく、そもそも小学校というのは殆どが明治なり大正の時に地域由来で造られたシンボリックな施設であるため、地域の想いも一定尊重していく中で進めていきたい。不安要素としては施設が経年劣化し、修繕なども大なり小なり必要なので、将来的に地域に移管することになった場合、それを維持していくための経費が発生する。細かい修繕はともかく大規模改修となればどうするのか、その辺りは検討を進めていきたい。ただ、シンボリックな施設で様々な地域由来の事業や行事を進め、色んな特色も出していただいていることは肯定的に捉えている。

委員：

なかなかデータ化は難しいと思うが。小学校でなくなった後も、地域のシンボルとか活性化の拠点みたいなものとして必要、という認識があってやられているという捉え方でよいか。別にそう疑って言っているわけではないが、負担に思われている可能性もあると思う。その辺りはどうか。

地域振興課：
そこは、二面性があると思う。ベースは地域のシンボリックな施設、拠点だという思いを持っておられるのだが、現実的に何年間か指定管理受託されて管理運営されている中で、現実的に例えば修繕があるとか、小学校が再編されて今まで子ども達が来ていた学び舎がイベントをしない限りは子どもが何年も集わない、となっていく中で施設をどうしていけばよいのかという思い。シンボリックだけれども、5年先 10 年先を考えると他の利活用方法も検討してないと有効活用にならない、という危機感を持っておられるところもある。それに関してはご相談も受けながら進めていきたいと考えている。

委員：
最初から抽象的な質問で答えにくかったかも知れないが、ありがとうございました。

■2－17 山陰本線南丹市広告宣伝事業について

委員：
これも特に何か問題があるという証拠を持っているわけでも、攻撃するつもりでもないが。
これについては元々、十何年前から関わらせていただいて、最初は宣伝らしいことを殆どしていなくて、職員が撮ってきた写真を Excel ファイルに貼ってHPに公開していた程度だったのが、京都駅とかにサイネージ広告がバーンと出るようになって凄いなと思いながら見ていた。その展開で東京方面にも出すようになったと。京浜東北線とか埼京線とか中央線快速根岸線とかの車内で。やはりJRの区分で関東方面に行くと、東北が素敵だとか、信州が最高だとかばかり出てくる中で、この南丹を打ち出したのは画期的とは思うが。何かの形で効果や、委託先からこんな手応えがあったとか、そういうのが欲しい。何か把握していること、事業費527万で関東にも南丹ありということを打って出た手応えはどうだったのか。お分かりの範囲で教えていただきたい。

地域振興課：
この事業については、簡単に言うと1つはサイネージ広告、いわいるデジタル的なもの。それと紙ベースの昔ながらの吊り広告、この2つを手掛けている。関東では吊り広告（現物持参）で、こういうポスターを広告に入れている。昨年度は残念ながらコロナのため観光誘客をやりづらい部分があり、ふるさと納税事業も組み込んで、成果としてメールなりお便りで知っている範囲でも、確実に2件は増えた。それ以上は潜在的な効果はあったのかも知れない。そういう意

味では訪れてきていただく、認知していただくということも大事だが、ふるさと納税で繋がっていくことによって地域にプラスになっていく実感はある。

委員：
　当然、一定の効果はあるんだろうと思うが。もし、そういう具体的な効果というのも、なるべく情報収集し、確かに意味があるのかどうか確認しながら進めていただきたい、と思ってお尋ねした。よく信州に行くが、あちらに行くと日本の原風景みたいなキャッチコピーで売っているのを見る。「こんな綺麗な原風景なんてないだろう」と思いながら。美山の風景も凄く心を掴む力はあると思うので。私自身は多分、効果はあるんだろうと思っているいるが、そういうデータがあるとよいなと思ってお尋ねした。引き続き頑張っていただけたらと思う。
　皆様こういうような形で、事業の必要性とか、そもそもの狙いを踏まえながら、狙いどおりになったのか、なっていない実態を知っているとか、あるいは知らないがこの施策はこんなに上手くいっている、こんなよい効果があるという意見をいただく場。皆様地元なので、いざ担当者が来られると言いにくい面もあろうと思うが、そこは狙いをしっかり検証するということでやりたい。

■4－13　アーティスト・イン・レジデンス事業について

委員：
　昨年度に、アーティストが南丹市に住まれて旧4町の特色などをリサーチされたと聞いている。最近、京都府の担当が来て、今後の相談も受けた。よい取り組みで成果も出てくるのだろうと思う。旧4町の中で地域特性や商店街の構成で八木町が選ばれたと聞いている。そこに事務所があるので光栄なことだと思っている。
　説明を受ける中で、八木町の中で動線をどう考えて、そのように6人のアーティストの作品を展示するか。それぞれ2箇所ずつ作品の展示場所を求めているとのことで、地主さんと交渉しながら場所を大体決めさせてもらった。
　この事業をすることで、他地域では2～3,000 人は来られたと聞いているが、この評価調書の中では「補助金を出した」ということに留まり、少し軽めの扱いに感じた。できることならこの事業が八木で本当に根付いて、今後展開ができるように。参加されるアーティストは芸術としてかなり深い考えをお持ちの方ばかりだと、インターネットにも出ていたので。その方々が南丹市の中で住まわれてリサーチし、八木を選んでいただいているのだから、是非ともこの秋の展示会を成功させて、知見を寄せ合って次に繋げて欲しい。
　中心市街地であったり、芸術・福祉色んなものが八木町の文化として発展をしていって欲しい。そういう希望を持って話を聞いていた。

地域振興課：
　この事業については委員にも色んな局面でお世話になっていることをこの場をお借りして

お礼申し上げる。この事業は令和2～3年度年の2箇年事業。
　令和2年度については京都 Re-search という名前のとおり、まずは調査をしてどういう形で芸術作品を地域の日常の中に非日常な展開をもっていけるか取り組んだ。そもそもこの事業は京都府主導で府内市町村のいくつかとで2年間に渡って事業を展開していくもの。南丹市以外では八幡市、京丹後市などで同じ取り組みをしている。昨年度亀岡市も大々的にやりたかったが、コロナの制約が大きくて大々的にはできなかったと聞いている。
　今委員からあったように、今年度は昨年度のリサーチを踏まえて八木町（商店街の空店舗）を中心に開催するが、他町（園部・日吉・美山）の内容も盛り込んで実施する。芸術と言っても、今回のメインは映像芸術の方で、音と映像を絡ませる内容になるので、様々な展開ができることを期待している。実施時期は10月1日～11月7日まで1ヵ月程度。既に現場での調整も始まっており13日にはアーティストの方々が現地確認をされるので、同行する予定。ただ不安なのはコロナ。昨年度の亀岡市のように力が出しきれないとういうことになったら残念だと思っている。ちなみに令和2年度はこの実行委員会に対して50万円の支出をしているが、今年度はもう少し大きな金額を出してやっている。これを機会に地域の中に日常と非日常がクロスする、新しいかたちの芸術作品が芽吹くきっかけになることを願っている。

委員：
　色々な地域の方が参加できるように取り組んでおられると思うが、住んでいる者の実感としては「知らなかった」という周りの反応を聞く。お知らせなんたんを隅々まで見ていない方が多く、最近は市公式LINEをよく見ている方が多いようなので、こういう活動などを発信していける体制が望ましい。

地域振興課：
　ご意見ありがとうございます。日程は決定しているが、もう少し具体的な部分、調整中の目玉要素がある。それが出せるようになったら、今のご意見も踏まえて、紙媒体のPRに加えて LINE など SNS を使った広報も進めていきたい。

■4－4　美山暮らし情報配信システム整備事業について

委員：
　前回議論になったのでお尋ねしたい。この事業についてはアプリを作って取り組んでいるが、利用者がそんなに伸びていないのではないかというご意見があり、狙いどおりに使われていないのではないか。それほど便利でない、独自のサービスがないものではないか。66万円の事業とはいえ、評価はしなければならない。例えば、防災無線でほぼ補えているのでは、という見方もある。どんな政策でも全く必要性がない、一切有効性がないということはない思うが、導入時はさておき、改めて現時点で立ち止まって考えた場合に、必要性の有無や、狙いどおりになっているのか、なっていなくても何らかの意義があるものと捉えられるのか。当会議でも

意見が分かれているところで、厳しめの意見もある。どう見たらよいのか、担当課の見解を聞きたい。

地域振興課：
　この事業については確かにご指摘いただいている課題も少なからずあると認識している。例えば利用者は、年度末で569件登録。数だけ見ると少ないように思われるが、美山の7月末の人口が3500人台、かなり減ってきている。その中で、想定は大体60～65歳以上の高齢の方の登録。ただ、一方で65歳以上でスマホ・タブレットを使える方が少ないという課題もある。
　防災無線は自宅にいないと情報を得られないが、当アプリはスマホ・タブレット対応のため自宅外でも見られる。各地域振興会の店舗にライブカメラが付いていて、混雑状況も見える。色んな場所で地域との繋がりが見出せる。有用な情報が配信されることもあり、画像も使えるという点も一定の評価はできると思う。
　登録人数は担当部署としては必ずしも少ないとは思っていないが、多いとも思っていない。そこそこ成果があり課題もあると思う。10年後になれば、モバイル端末の時代も変わっているかも知れないが、利便性も考えながらやっていく。年間委託料の多寡判断は難しいが、他のシステムを考えると比較的安価だと考えている。

委員：
　ありがとうございます。頷ける点も多々あった。視点を変えて、委託先のアプリ開発事業者としては狙いどおりなのか、苦しんでいるのか、そうでもないのか、伺いたい。というのは、私も50代になったが、情報収集は SNS でやってしまう。アイデアコンセプトとしては地域限定でトータルに情報提供するサイトの可能性を提案され育んできたということだと思うが、こういうものが上手くいくのかいかないのか。提供側にやる気と積極性があるなら、可能性を見い出すこともできると思うが、分かる範囲でお尋ねできたら。

地域振興課：
　この事業は、元々京都府と事業者で考案したもの。その中で美山地域に合わせて一定修正して配信した。当初の京都府の事業コンセプトは高齢者見守り、ということで交通のサービスや買い物支援という目的があったが、美山地域では対応できない部分があり、情報発信を中心に取り組んだという経緯。交通サービスや買い物支援サービスが美山地域全域で取り組めるようになったら、その部分も強化していきたい。
　アプリの運営委員会があるので、そこでも各振興会と連携して取り組みや会議を持っているので、今後改善に取り組んでいきたい。

■4－1ほか　定住関係事業全般について
委員：

空き家・定住に関して、1つ1つの事業は多分、必要なものだと思うので、ここに書かれていることができていないとは思わない。ただ、林業や農業の担い手が増えている実感があるのか伺いたい。

たまたま先だってタウンミーティング的なことをやった時に凄い危機感をお持ちの方々がいらっしゃって。農業や自然を守っていく担い手をもっともっと増やしていきたいと。そのあたりの進捗を聞きたい。もしできていないのであれば、もっともっとそこに対して資源を取りにいくことも必要と思う。

地域振興課：

林業・農業の担い手確保については、今の田舎の状況を見ていると非常に厳しい一方、やはり移住希望者の中ではそういうことに関わっていきたいという方も沢山おられる。担い手は地域にとっては非常に不足している。

特に農業の場合で言うと、耕作放棄地が増加し、農業に関わりたい移住希望者もいながら、うまくマッチできない状況がある。これは農業施策にも原因があり、まず農地法の制約で農地が自由に使えないということ。今の農政のターゲットというのは、本格就農を目指す方に対しての支援や、一定のルール下での地域の農地保全に対する支援というのはあるが、これから農業の担い手になってくれるかも知れない農業の初心者を育成していくというプログラムが少し欠けている部分があると思う。そういう観点から、南丹市でも地域振興課と農業推進課、農業委員会でプロジェクトを立ち上げ有効な手法を検討していこうとしている。核になるのはそういう幅広い就農、農にかかわりたいという人に対する相談支援体制をどういうふうに作っていけるか。人件費等色んな問題がある、財源の捻出も含めて検討していくのが1点。

もう1点は、集積できる農地は集積した方がよいが、集積できないようなものが空き家付きの農地であるということ。これを集積しないまま活用していく仕組みづくり、これについては例えば農地バンクなども検討していきたい。

あと1点は、農業委員会の所管になるが、特に空き家に付随する農地の、下限面積の要件緩和など。

それらは今後、まず市として詰めていきたい。実は以前から京都府にもそういう相談支援体制について要望しているところ。全国的な課題である。また南丹広域振興局と亀岡市、京丹波町と一緒にワーキングチームを作っていく中で、そういう新しい農の担い手になる方に対する支援が何かできないかと考え、第一弾として農業に踏み出そうとする人がつまづかない為の冊子も作り、次の段階を今検討しているところ。

委員：

ありがとうございました。まだまだお伺いしたいところだが、予定時間なので地域振興課へのヒアリングはここまでにしたい。

多くの事業について課題もあろうかと思うが、やはり期待したいという声が委員の皆様から

多く上がっている分野。地域に人が入ってきてもらい、元からいる方と上手く繋いで新しい地域をつくっていく。一方で、集落ではない新興住宅地に沢山人がいて、そこに新住民のような方もいらっしゃると思うので、そういう方も合わせて新しい南丹市をつくって一緒に発展していく、ということになればと期待している。今日は理解を深めることができてよかった。

●ヒアリング②：観光交流室

■コロナ禍における観光施策全般について

委員：

　個別の質問が出る前に観光交流室にお尋ねする。コロナ禍で観光というのは非常に難しいだろうという認識が一般的にあって、インバウンドがピタッと止まってしまったが、その中でもできることがあるはず。コロナ禍での観光、これからの観光をどのように捉えて、どのような思いを持って取り組まれているのか。

観光交流室：

　コロナの中での観光は、色々なやり方があると思う。特に大都市では観光がしたい、という需要は沢山ある。その中で今までのような都市部の施設を巡るのはしにくい、3密のイメージがない郊外に行きたい、という方が非常に多くなる。都市部から少しでも離れれば郊外となるので、「郊外」というだけで南丹市が選ばれる可能性は低い。特徴のある郊外・田舎であることをPRしていき、郊外に目を向けたい方に選んでいただけるようなことが必要。

　確かにインバウンドについては、ほぼゼロに近づいている。今までマイクロツーリズムと言われるような近県の中でも南丹市のことを知らない方は沢山おられる。そういった方に南丹市を知っていただく、今までよりも近場にPRということが非常に重要になってくると思う。今後、観光振興については将来のインバウンドも見込みながら、近場にこれまで以上に積極的なPRをしていくことが必要。

委員：

　事前に委員には各事業の評価とコメントをもらっている。その中で、南丹市の観光課題として1人当たりの観光消費額が低いということが以前から話題となっていた。最近の動向はどうか。観光入込の単価を上げていくという取り組みについてどうなっているか。

観光交流室：

　京都府へ報告する観光入込客数調査ならびに消費単価調査によると、若干増えているが、まだまだ単価が低い。これまで以上になんとか単価を上げていかなければならない。コロナ禍も踏まえ、地元の受入についても少ない客数でいかに消費単価を上げていくかということを重要視している。今後は誘客と合わせて適切に消費していただく機会づくりが重要と思ってい

る。

委員：
　関連して、南丹市ではセクションとして観光交流室と商工課が別々になっている。商工と観光が一緒になっている自治体も結構ある。地方創生の観点から言うと、地域特性を理解して観光に来てくれるとか、それを企業で商品化して輸出、というのもあり得る。地域特性を活かした商品化で稼げているのか。観光と商工にまたがっている気はするが、そういう情報共有や政策のすり合わせはどのようになされているのか。抽象的な質問で恐縮だが、私達の会議としては、結局地域特性がどの程度上手く掘り起こされていて、持続可能なきちんとした形で商品化されたりしているのかが気になるところ。それが単純に観光分野と商工分野にまたがっていると思うので。

委員：
　私も凄く気になっている。地域の方と補助金事業で取り組む際や、都市部から観光関係の商売がしたいというので相談を受けた際など、どちらに相談すべきか分からず、他方に回されることがあった。上手く両部署で受け止めてくれる体制があれば。

観光交流室：
　2年前までは同じ部署だった。今は改めて機会を設けて会議はしていないが、同じ執務室なので、話はお互いに聞こえているし意見を出すこともよくあるので、情報共有はある程度できていると思っている。ただ、今後観光交流室と商工課がそれぞれ後独立して進んでいく場合は、もう少し改まった形で情報共有をする場を持ってもよいと思っている。

委員：
　抽象的な質問ばかり恐縮だが、関心があるのでお尋ねした。
　地域特性を上手く理解し、適正かつ持続可能性のある取り組み方をして欲しい。地域のよさを改めて外部の目線なども借りながら理解してそれをよい形で観光に来てもらったり、体験に来てもらったり、売れるものなら売って、のようなことができたらと、地域創生の観点で思う。
　全般として順調に進んでいるという認識か、コロナで人の流れがガクッと絶たれてしまったが流れはできつつあるという認識か、まだ課題もあるという認識か、そのあたりはどう捉えているか。

観光交流室：
　答えになるのかどうかは分からないが、特徴的な地域特性としては、京阪神の大都市から移動可能な距離にあるということ。一般的に日帰りで移動される距離というのは車で片道90分、道がよくなり車も快適性も増した結果2時間まで、という範囲で言うと兵庫県の中心部、大阪

の中心部、京都市内という大都市から移動可能な距離にあることが、この地域が持っている一番大きなポテンシャル。それでいながら大都市と全く違う、同じ京都でありながら京都市と全く違う雰囲気があるというのがこの地域の特性と思っている。

それを活かすには森の京都 DMO や美山 DMO でもお世話になっている環境学習旅行、修学旅行等、そういう体験もの。沢山の方が幼い頃～若い頃に体験された場所については、大人になられてからも家族連れで再度来ていただくこともできるし、まちで育った方が田舎・郊外に目を向けるということはその方の人生にとって非常に大きな糧になろうかと思う。そういう機会を提供できるのがこの地域の大きな地域特性かなと思っており、事業の方向性として合致していると思っている。

委員：

観光統計には「3つの8割」がある。京阪神から来る人が8割、車で来る人が8割、リピーターが8割。リピーターの質というのが重要で、これをどう高めていくか。その為にも来てもらって現地の人との交流は大事で、「もう1回あの人に会いにいこう」となるように。

京都府南丹広域振興局ではこの地域でスポーツ＆ウェルネス構想を掲げて、このエリアに来ていただいたら、身体を動かして元気になって帰っていただきたい。そういう取り組みを、各エリアの特徴を活かしてやっていけたらと思っている。

質問だが、園部文化観光協会ができて、それぞれ成り立ちは違うものの、観光推進する母体が旧4町にできた。いかにそれぞれの地域の特徴を活かしていくか、昨年ぐらいから連携の場を持っていると思うが、今後の展望としてどのような特徴づくりの基盤をつくっていくのか教えていただきたい。

観光交流室：

観光協会の連携としては、連絡会というものを立ち上げ活動しているところ。それぞれの観光協会ならびに DMO は、成り立ちや規模、取り組んできたことも違うが、地域を観光で何とかよくしていこうという思いについては一緒。情報共有し、1つの団体ではできないことも、互いに協力することでできることが沢山出てくると思う。連絡を関係を密にし取り組んでいくので、ご意見をいただきながら進めていきたい。

■2－4　観光イベント振興事業ほか　イベント事業全般について

委員：

コロナ禍でイベント関係はもうかなり中止が続いている中で、観光イベントへの仕掛けが何か必要だと考えるところ。これだけ根付いてきたイベントが、コロナ禍で中止になって消えていってしまうのではと心配されている。主催者としては苦しい決断であると思う。観光交流室として考えている仕掛けがあれば教えていただきたい。

観光交流室：
　観光イベントについては判断が難しく、実行委員会制でやっているものが多く、それぞれの実行委員会でそれぞれの地域のことを考えながら「今はするべき時期ではない」という判断で中止にされているものが多く、イベント主催者の構成や地域の方々の年齢構成などが判断材料になっていると思う。その上で重要だと思うのは、コロナによってやめるのでなく、然るべき時期になれば再開できるように応援するというのが市としてすべきことかなと。その判断を誤り、クラスターを発生させることがないように、真剣に判断していただく。観光交流室としても、それについてご相談を受けながら今後も進めていきたい。

委員：
　最近の観光は、地域特性を活かして外部の人に見に来てもらうと共に、それが地域の方にも大事にされる、理解される、という両面が必要とされる。委員から指摘があったように、観光交流で外部から何人来たというデータはあるが、その地域の方にどれだけ支持されているか。いくつかの重要なイベントや、ラストキャッスル・ファースト天神、八木城のように最近推しているようなものについて、地域にも理解が広まって応援してもらえているのかというところにアンテナを張っているか。データまで取るのは大変かも知れないが、可能なら取って欲しい。今後もその点をぜひ意識していただきたいが、どうか。

観光交流室：
　地域の進んだものを見てもらう、というのが観光の語源だと聞いている。そういう意味で、地域の人が支持し、誇れるもの、それが観光資源の最たるものと思う。よって、地域の人に対して情報発信していき、理解していただき、自分達の宝物として誇っていただくというのが重要。それを何らかの形で数値化することについては、比較する上でも重要と思うが、今アンケートをとって何か数値化するということはできていないので、今後何か考えたい。

委員：
　何か数値を取る・計るということについては、大学などの連携もできると思うので、使っていただいたらよい。京都には色々大学もあるので、ぜひ協働していただいたら。
　観光はデジタル発信が大事だと思う。そこが見えにくいという指摘も散見されるが、どうなっているか。インターネットを使った南丹の観光発信はどうなっているのか。

観光交流室：
　今年度の事業で新しく WEB サイトを立ち上げることになっており、準備を進めているところ。市公式 HP の中にあるこれまでの普通の観光案内とは違った形で、動画を入れたり、可愛いマップを入れたり、と少し工夫をした WEB サイトを立ち上げていこうと考えている。

委員：
　これから出てくる、強化されるということか。

観光交流室：
　そうである。

■2－8　都市と農村の交流事業について

委員：
　この事業は調書を見ると、ご指摘のとおり、鯖街道をやっているのか、民宿をやっているのか、農業体験ツーリズムをやっているのか、分からないような書き方になっている。実際に進めてきたことは、この美山町自体、2010年からエコツーリズムという取り組みを始め、オーバーツーリズムになりつつあった中で、地域の人が自分の言葉で自分の宝について語れるような観光の在り方というのをこれまで10年探ってきた。その中の一部について、この事業で支援を受けてエコツーリズムという形で展開をしてきたというのが実際の事業の中身である。その点を補足をさせていただきたい。
　昨日、美山 DMO の理事会があり、今後のコロナ禍においての観光の手法などについても話が出た。その中で、SDGsという言葉も出ており、やはりコミュニティが観光についてポジティブな思いを持っていく、観光によってその地域がさらに活性化されていく、観光客を受け入れていく、という流れになっている中でそれを意識した観光地づくりというのを美山町だけでなく南丹市全域に今後広げていけたらと思う。特に WEB サイトの話で言うとサステナブルツーリズムに特化したようなサイトを今後 DMO でも作っていきたいと思っている。南丹市で作る WEB サイトの内容と同じような方向性でしていきたいと思っているので、今後色々と関連してくる事業があるかと思うが、連携をさせていただきたい。

委員：
　観光交流室ではこの事業をどう考えているのか。重点はどこにあるのか。農家民宿？西の鯖街道？見えにくいというご指摘をいただいている。どちらも重点なのかも知れないが、この事業全体としてはどういうことを狙っているのか、少し重点が見えにくい事業のように見受けられる。

観光交流室：
　この事業はエコツーリズムを推進している美山地域において継続できる観光振興をしていこうという主旨で取り組むもの。その中で、西の鯖街道は高浜から始まり京都市内に繋がるもの。歴史もあり、そして昔から繋がるもので文化的に他地域との連携もあるので、エコな取り組みの一環という形でこの事業の中に入れて進めさせていただいている。
　観光として見ていただくだけではなく、この郊外地域と都市の方が交流する事業を推進す

ることで、南丹市全域に沢山の人が来て、感動して帰っていただくということを進めていきたい。この事業は、幅広に都市部の方と南丹市の方が交流できる事業を包括しようという事業である。

委員：
　入口を広く取ってその中で色々あり得るという。逆に1つ1つのプロジェクトについて、狙いをしっかり絞って上手くいったか確かめていかないといけない。

■2－5　観光宣伝事業（その他宣伝事業）ほか　大河関係全般について

委員：
　お城と大河の関係で聞きたい。お城ブームは確かに来ているらしく、一方で「麒麟がくる」も凄く人気だったようである。その中で南丹市には元々ラストキャッスルもあれば光秀ゆかりの山城もある。これについてリピーターも来ていただいて幅広く支持され、愛されていくようなことになっているのかどうか。担当の手応えはどうか。認識を伺いたい。

観光交流室：
　大河関係で昨年度八木町観光協会では八木城のPRを頑張っていただいて、ツアーも何度か開催していただいた。凄く積極的に展開していただいた。市としては山城ガイドブックを作成し、応援してきた。折角沢山の方が八木城に来ていただいたので、引き続き八木城や他の南丹市内の山城にも訪れていただけるように、PRを続けていきたいと思っている。

委員：
　八木城はともかく山城の方は教育委員会の管轄か。実際アクセスをきれいにするとか、ある程度表示を付けるなど必要。そのままでは道のない山登りになりかねない。お城を本当に好きな人は上がったり下りたりするが、そのためには安全にアクセスできてある程度情報が見れて、植生を整理するなど必要があると思うが、教育委員会との狭間にある話なのか。そのあたりの連携はどうなっているか。

観光交流室：
　南丹市にはP20（ピートゥエンティ）という部局横断プロジェクトがあり、その中で観光交流室と社会教育課で協働しており、昨年度は明智光秀関連PRというテーマで、主にガイドブック作成においては社会教育課と協力して取り組んだ。今年度についてもそんな形で協力してプロジェクト進めていく準備している。
　個々の山城については、例えば地域のものであったり、個人のものであったり、色々と課題がある。市が入るにはその地域の協力が本当に必要。例えば園部町宍人のように地域で盛り上がっているところについては情報共有や事業提案など積極的にこちらも関わっている。一

方で、色んな人に来て欲しくない、というところも実際あるので、そういうところについては市が手を出しにくい状況。

委員：
　駐車場の問題や、山に勝手に入られて荒らされる心配もあるだろう。お城好きというのはある種、研究的・本気な人が多い。色々と調べ尽くして、研究本があれば、増々深まって何度も何度も訪問されるようであるから、上手くそういう例を作っていかれたらと思う。まさに地域の理解、周囲に迷惑を及ぼさないようにする整備が必要。誰が主体になるのか分からないが、一定研究を深めていくとファンは何度でもくる。観光で折角取り上げられているなら、本格的にやって欲しい。

委員：
　お城の整備の話だが、そもそもお城が好きな方は消費単価が高いのかという疑問がある。美山町でバイカーが非常に多いが、彼らは消費単価が高くない。それと同じでお城に登る人はお城が好きなので観光がどうこうではない。なので、そこに経費をかけることについては私は疑問がある。特にハード整備が必要なところなのでかなりお金もかかるだろうし、かなり地域との調整に時間がかかる。そういう経費をかけて、どれだけの効果が得られるのかということが仮説として成り立つのかが私は疑問なので。根本的に、取り組みを進めること自体、立ち止まって検討が必要と思う。

委員：
　自分で発言しながらもお金は使わないな、と思っていた。ただ、発信力はある。きれいな園部城みたな駐車場を作れと言ったわけではなく、どこでも停めてはいいわけでもなく、車が停められる場所ぐらいあれば。ちゃんと研究されていたら「今日も南丹の城に行った、更によくなっていた、また行きたい」など淡々と発信されるのでは、という。お金は落とさないが。

委員：
　御城印を作っていると思う。買い物をしたら貰えるという仕組みになっていて、よい手法だと思った。お寺の御朱印のイメージがあったので、最初は少し違和感があったが。山城に登るだけでなく、お金を落とすという意味では、割と小さい店でも御城印が手に入るところを探して来る人もいる。この山城に来たらこの店でお金を落としてもらう、というゆるやかな誘導が見えてよいと思う。

委員：
　八木城のハード整備は市でしてもらっている。地元は看板をかけたり、安全に登れるようにロープを引いたり、歩きやすいように樹木がないように整備をする。八木町では地元の理解を

得ながらや自治会や住民が協力している。そういうことで人数も年々増えている状況。それをどうやって経済に繋げていくかというところで、御城印を作って何とかまちへ誘導したい。来てもらって買い物していただいたら差し上げます、という仕組みを地元で考えた。ジョアンに関する食べ物なり、グッズなりそういうものも地元で考えて、来ていただいた方に地元に入ってもらえるような仕組みを地元と連携をしながらやっている。

今年もうひとつ、IT 関係の地元企業と協力して観光関係の補助金を取りにいっておられると聞いている。それが成功すればデジタルで観光発信に繋がっていくのではないかと期待する。市と地元企業、自治会、商工団体が協力することで地域が盛り上がるのではないかと思っている。「麒麟がくる」をきっかけにしてこういうことができているので、今後もう一歩前に進めばと思っている。

委員：

御城印は初めて知った。面白い。

委員：

園部城では販売されている。八木城では販売せずにあげればよい、という意識にて、補助金を使いながら商売に繋げ、発行しているところはお店の売上に繋がっているのではないかと。

委員：

ありがとうございました。では観光交流室にも色々教えていただき、所管以外の話まで色々と、観光関連ということで聞かせていただいた。観光も南丹市の地域創生の中で大変重要な部分。今後とも期待しているので、頑張っていただきたい。

…………………………………………………………………………

＜休憩5分＞

…………………………………………………………………………

●令和2年度交付金事業の評価確定

委員：

ここから後半戦は全ての交付金事業約40事業の1つ1つについて、委員の皆様にそれぞれに事前評価してもらったものを会議として評価の形にまとめていく。この部分をこれだけ表をきっちり書いて1人1人にこういう評価者のコメントを書いてもらうところまでやっているところは意外と少ない。ではやらなくてもいいのでは、という話になりかねないが、評価をきちんとやるうえで大事なこと。よい・悪いということだけではなくて、「こうすればいいんじゃないか」というアイデアがそこで誘発されるということもあって、大事にしている部分である。

例えば城陽市や久御山町では、こういう委員会でそれぞれが全体的に思うことについて報

告するやり方になっている。宇治田原町では南丹市の方式を取り入れながら、会議としてはバックリとした評価をされるが、府立大学にご依頼いただいて学生たちがこういう評価をして議論して意見を出すことをやっている。

いずれにせよ、国としては地域の自主性で色々チャレンジしてもらってそこから優良政策事例を見つけて普及させていきたい、という思いで取り組んでいる。ということを踏まえ、評価をしていけたらと思う。

基本的には「有効であったかどうか」ということを見ていきたい。狙いどおりの結果になったかどうか。突き詰めたら各々の事業について研究して明らかにしていかないとけないが、そこまではできないので、地元の各界から来ていただいた皆様の知見で有効性を定めていこうということ。事前評価を9名の方にやっていただいているのは、私が司会に徹しているということである。

■1－1　サテライトオフィス誘致事業者等支援事業　：　①

委員：

「有効」が8人、「どちらかといえば有効」が1人だが、どうか。少数派からの反論を求める主旨で聞いているが、特になければ多数派の意見を採用するやり方で進めていきたい。ついでにご意見を述べたい方についても発言いただいて構わない。

■1－2　商工振興助成事業（創業支援）：　①

委員：

関連してコメントを書いていただいている部分、これは勿論、全部記録に残るが、何か更なるご意見があれば。

委員：

意見で書いたが、まち全体で起業者を応援する風土づくりも重要。どういう方が起業され、どんな事業をされているのか、ということを、私の立場的にもそうだが、市民の方が知ることで応援する意識を醸成していくことが大切と思う。

委員：

とても大事だと思う。私自身も関心がある。

気が早いが、来年度はこういう商工の話、創業支援などについてヒアリングで伺えたらと思うところ。

委員：

商工会に入った人は会報誌に名前が載って紹介されている。商工会に入った人だけなので、そうでない人も多い。

委員：
　創業して商工会に入ったら載る。なるほど、もっと発展できそうである。どんな人が創業しているのか、普通に市民としても気になるところだと思う。そういう取り組みについてご意見をいただいた。

■1－3　南丹市販路開拓支援事業　：　①
委員：
　第1期では目標設定がおかしかった事業。

■1－4　間伐材出材奨励事業　：　②
委員：
　間伐は山の整備によいと思うし、木材を切り出すことで販売に繋がるが、切り出した後その山をどうするか。そのあたりまで繋げて欲しいと思い、意見を書いた。
　今、山ではソーラーパネルなどかなり大きな開発がされているが、次に木が生えるまでどうしていくか。山の保水や景観も考えていただきたい。造林・育林は30年で直径20センチという成長速度。復元まで100年～200年という時間が必要。切り出すばかりでなく次どうしていくか考えながらこの事業を進めて欲しい。

■1－5　特用林産振興事業　：　①
委員：
　この事業、どちらかと言えば里山をどう守るかという視点が必要。山椒もそうだが、栗も植え付けておけばよい、というものではない。その土地自体を改良することも含めた排水事業なども含めて将来的に取り組んでいかないと。1,000 本植えました、900本枯れました、みたいな話になりかねない事業なので。これは長期的に取り組まないと本当に環境を守るとか、里山の風景を守ることになっていかないと思っている。この事業とは関係ないかもしれないが、その視点で長期的に取り組まないと成果が上がってこないと思う。

委員：
　最近は台風対策も必要と思う。研究もされていると思うが。長期的な視点で新しい考え方を入れた取り組みもいるだろうということ。

■1－6　小規模企業支援事業　：　①

■1－7　ものづくりのまち推進事業　：　①
委員：

交付金事業としては初だが、前から予算がついている事業。南丹市工芸家協会の方と話す機会もあるが、委託事業としては惰性になっている雰囲気もある。最近加入された30代の方もいるし、京都伝統工芸大学校もあるし、もっと有効にできるチャンスもあると思う。交付金対象になったからこれをきっかけに話し合いができるとよい。頑張って欲しい。

委員：
やってきたことが認められて国からお金を貰えたことをきっかけに、転機を模索することはしていただきたい。国からお金をもらって市は助かったが、地域創生的にどうか。どう一般化されたか、発信されたか、と国の立場なら言いたいが、委員の意見のように交付金の主旨を踏まえて発展させて欲しい。

■2－1 空き家流動化対策事業 ： ①

委員：
大事な事業だということは一貫している。もう少し何とかならないのかという思いはより加速化させて欲しい。ではどうできるか。どうやるか。

委員：
農地がついて回るから空き家活用が進まないという前回の議論については、プロジェクト化して取り組んでいるとヒアリングで聞いたので納得はした。例えば、農業以外の人が農地を買う場合全国的には50a 以上だが、南丹市は10a まで下限面積を緩和しているものの、それ以下に下げないとまだ流動化しない部分があるのか。そういう対策は早めに出していかないと。早い段階で空き家と農地を分離させるとか、農業振興地域については農業委員会に預ける、というような。そういうシステムを作っていかないと農地の流動化も進まないだろうし、住宅の流動化も進まない。これは継続的にしっかりやってもらいたいと思う。会議を持たれているということなので、それに期待するしかない。そこまで皆が理解してやっておられるのかは疑問である。定住するにしてもそこで生活する人が生活できなければ見通しがつかないという部分もあるので。そのあたりも含めて重点的にやっていただきたいと思う。

委員：
京都府では集落営農に凄く力を入れてやっている。委員の仰った取り組みと、南丹市でやっている空き家流動化対策や条件変更は噛み合っているのか。営農自体は集約化し、農地と切り離して住めるようになればよい、ということなのだろうが。

委員：
絵に描いたように進まないというのが現状と思うが、そこを克服しないと1つも進まない。早い段階で優良農地と言われる農地を農業委員会・農業推進課とすり合わせて受け入れてく

れる農業団体・農業者に斡旋するような方向で進めれば農地付き農家も流動化すると思う。集落営農で南丹市全体の農地問題を解決できるとは思えない部分がある。

委員：
　農地法の下限面積について、管内の状況を調べた。南丹市は10a 以上、亀岡が30a、京丹波町は20a だが、さらに空き家バンク登録した空き家とセットの場合は１㎡でよい、そういう割り切り方もあると思う。それぞれの市町でどう考えるかによるので、議論を深めていけばと。地域によって取扱いが違うだろうから、それは地域ごとに選択ができるようにしていけばよいと思う。やはり10a 以上となると機械でないとできないので、1からという人では機械に 500 万円投資しても売上100万あげるのも大変。普及センターなどに聞いていると「本当に儲かる人しか応援していない」という話も一方ではあるが、逆に借金ばかり作らせてしまってもよくないと。トータルでどう考えていくか。

委員：
　トータルとしては、これからの農山村デザインみたなものが必要ではないかということと、府と市の施策の連携もいるだろうというあたりが課題ではあるが、単体の取り組みとしては有効であったとしたい。

■2－2　定住促進サポートセンター運営事業　：　①

■2－3　定住促進地域情報発信ツール整備事業　：　①
委員：
　　期待を込めて②としているので、有効であったとは思う。①にしていただいてよい。

委員：
　①でよいのではないか。

委員：
　皆様の後押しの声もあり、単純な多数決で決めるものではないので、①とする。

■2－4　観光イベント振興事業　：　②
委員：
　意見が割れているので、今日のヒアリングも踏まえて判断したい。しかし、実施できていない中で有効とは言えない。

■2－5　観光宣伝事業（その他宣伝事業）：　②

委員：
　ヒアリングで直接対話して、意見も色々できた。

■2－6　観光宣伝事業（美山 DMO 補助）：　①

■2－7　観光協会事業　：　②

委員：
　「各町の協会の連携」はできているか。

委員：
　合併後に移住したので、どうして連携できていないのか最初は疑問だったが、自然になってきたという印象。直接関わっているわけではないので何とも言えないが。

委員：
　外から見ていたら、もっと連携できる余地もあるのではないかと。

委員：
　それはあると思う。

委員：
　徐々に連携を深めていけたら、と期待する。

■2－8　都市と農村との交流事業　：　①

委員：
　よく分からなかったので③としていた。説明を受けて、地域の中で「自分たちのまちがよいまちだ」としっかり認識するのにすごく時間をかけることからスタートしているということを伺った。素晴らしい取り組みだと思うので、①にしたい。

委員：
　大きな枠組みの中で何をやるのか。その1つ1つがヒットで繋がるのかということが大事。こういう枠組みを作ってということ自体は有効であろうと思う。

■2－9　観光文化資源活用推進事業　：　②

委員：
　WEB サイトがこれからできると聞いたので。

■2－10　総合振興計画進行管理事業　：　②

委員：

　自分の関連事業なので言いにくいが。これも前からあった事業だが、交流人口の育成に役立つという視点で交付金事業にした経過がある。中立的に見ても本人たちはとても喜んでいる。毎年1～2名、今年度は2名を予定している。2～4回生の学生が1年間学びを活かしてお世話になり、重要な仕事をさせてもらって、本人たちも喜んで元気満々帰ってきている。

委員：

　アンケート項目だけではなくて、南丹市にも教育機関が沢山あるので、若い学生達と交流して、まちづくりなど色々考えるような取り組みをされた方が面白いのでは。今後もっと色んな活用をされた方がよいと思ったので、③として意見も付した。

委員：

　その意見を踏まえて②にしたい。さらに工夫できたらと思うし、大学側の担当としてもっとできることを考えたい。

■2－11　スポーツ拠点づくり推進事業　：　②

■2－12　山村留学事業　：　②

委員：

　山村留学事業が来年度で中止と京都新聞に出ていた。今現在7名で、元々は知井小学校に以前あった複式学級を解消するために山村留学があった。今は再編で美山小学校1校になり、131名。課題を色々と聞いていて、来年度で終わるのでなければ、30人以上になるクラスがあるので、学校運営協議会を通じて教室を増やすなどの要望もしないといけないという話をしていたところ。残念である。

委員：

　やはり受け入れ側の負担が大きいということか。

委員：

　そうである。高齢化している。

委員：

　美山で長く取り組んでくださったことに関しては、そういう成果も課題もあると。

委員：

　そういうことである。

委員：
　こういう事業の枠組みとして、他の地域への参考として言うなら、あまり特定の人に頑張って貰い過ぎているのがいけないのか、そうならざるを得ないのか。

委員：
　ご夫婦で長期携わられた。週に1回だけ地域の家に泊まりにいっているが。

委員：
　小学校が統合した時点で事業自体の意味合いを大きく変えてしまった。仕方ないことだと思う。

委員：
　こういう取り組みを全国にモデル事業として広げるべきか、あるいは広げるべきでないのか。そういう観点ではどうか。

委員：
　既に全国に広がっている事業だと思う。卒業された方が最終的にもう少し美山に戻って来たという実績があればまた流れも変わったとは思う。それは仕方ないことである。

委員：
　少しは戻っている人いたと思う。

委員：
　2名ぐらいである。

委員：
　運営に関して難しいところもある。実際に動いてくれている方に頼らざるを得ない部分があるかも知れない。

委員：
　南丹病院の研修医で来ている方に、山村留学ではないが、芦生の体験をしたことが面白くて、赴任先病院に京都中部総合医療センターを選んだという方が何人かいた。驚いた。
　どのタイミングで渡せばよいのか分からないが、他の委員の意見で書いてもらっているように、この地域を知ってもらうツールを送るのは大事だと思う。

委員：
　そう思う。私も成り行きで委員となっているが、元を辿ればボーイスカウトで芦生とかでキャンプをしていたよい思い出がある。事業自体については課題もある中で終わるが、この「留学で1年住む」というのがよいのかどうかは分からない。体験して南丹に長期で触れる方がよいのか、類似の取り組みには期待したい。特定の方に頼りすぎず。でも皆でやると無責任になる。子どもを預かっているだけに無責任では恐ろしい。

委員：
　ただ、この事業が25年続いたことが素晴らしいことだと思う。意義はもの凄くあると思う。こういう価値観の転換に繋がるような意義、競争社会に急に入れるのではなく、農村で暮らすという経験。親も子どももそういう価値観に立てるという点では、そんなことが25年間も続いてきたことが素晴らしいことだと思う。

委員：
　農家民宿で長期バイト、では微妙過ぎるか。小学生限定で1週間の農家民宿で住み込みバイトなど。1年が長過ぎるという気がするのと、帰省できるけれども現実的には難しいというのが重い気がする。もう少しライトなもの、しつらえを変えたらありえるとは思う。
　報道にもなって話題にもなっていて、かつ25年で終わられることなので、重要な取り組みではあったということで時間を割いて議論させていただいた。今回は②したいと思う。意見が様々出たので、取り組みを振り返ってまた新しい形でやっていただけたらと思う。

■2－13　商工振興助成事業（商工会イベント補助）：②

■2－14　歴史遺産振興事業（大河関係）：②
委員：
　今日のヒアリングでも、大河と城では経済効果が弱いという意見があったが、どうか。

委員：
　地域の誇りの醸成が目的なら評価できるが、商工観光分野で取り組むのであれば、そういう視点もあった方がよい。

委員：
　一応「新しい人の流れを作る」という基本目標関連だが、流れが細過ぎるか。④評価があることも踏まえて、②。今後に期待したい。

■2－15　展示会事業(大河関係)　：　①

■2－16　展示会事業　：　②

委員：

　引き続きこの展示会などで発信し、地域の人にも普及を図って欲しい。種は沢山あると言いたい。家でテレビを見ていたら、次の大河の関係で千葉県が出ていて、源頼朝が石橋山で旗揚げして負けて逃げてきて、そこから再起をはかった場所がパワースポットになっていると。こちらも負けていられない。足利尊氏が住まれて挙兵したわけだから。それを学術的にも裏付けして、分かりやすく魅力的に展示すると。今後も期待したい。

■2－17　山陰本線南丹市広告宣伝事業　：　①

委員：

　ふるさと納税が2人増えた、という微妙な数字。私も吊り広告を見てはいないが、ふるさと納税した。委託事業者もデータとか手応えなど教えてくれないものかという気がする。実際に広告を出している側にデータを提供して欲しいと思う。市役所で直接的データはあまりないだろうから。

■2－18　シティプロモーション推進事業　：　①

■2－19　地方創生拠点整備事業　：　①

■2－20　地方創生拠点整備事業　：　①

■4－1　特別支援教育推進事業　：　①

■4－2　障害者団体活動支援事業　：　①

■4－3　障害者就労支援ネットワーク運営事業　：　①

■4－4　美山暮らし情報配信システム整備事業　：　④

委員：

　担当の理想は分かるが、どんどん提案が出てきそうかというと、私の感触ではそのように思えなかった。大体、地域限定のネットワークサービスというものが本当に流行らないと見込んでいる。しかし、美山の皆さんに大事なものであることも理解できる。比較的ポジティブ評価が多いのは確か。ただ、無視しえない数の否定的意見もある。

委員：
　美山地域でもっと広まって使っていただければよいが。

委員：
　スマホを持っている方が少ない。高齢者にはなかなか難しい。

委員：
　このシステムを使えるようにスマホ教室などをやるという対策は考えられる。政策としては、美山アプリを入れていきましょう、と誘導していくのが自然な流れ。何もやらなかったら広まらない。

委員：
　私達は振興会でスマホに入れてもらった。結局、見ているのはふらっと美山のライブカメラぐらい。南丹市のアプリもあるので。

委員：
　課題はスマホのハード的問題ではなく、内部のソフト面、内容の話だと思う。現状コロナ発生数の通知アプリみたいになってしまっているので、そのあたりは改善が必要。一番使われているのがライブカメラ機能なので、4箇所に設置されている映像が見られるというのが一番の特徴だと理解している。その機能だけ外に出してアプリでなくても皆がアクセスできる形にすれば、それで役目は終えるシステムだと思う。

委員：
　この基本目標に対して役割を果たしてないように思う。ライブカメラを見られるのなら、例えば野菜売り場に設置してあって農家が在庫管理できるとか、他の使い方を検討すべき。

委員：
　正直、地域の情報ネットワークとしてそんなに凄い役割を果たしていない、ということ。この事業に対して辛口評価過ぎではないかという思いもなくはない。率直なところ、評価は割れているが、この議論では②か④しかない。可能性のあるシステムを使って新たな展開でもあれば別だが、ここはしっかりやっていただきたいということで、思い切って④でどうか。積極的に①の意見がなければ、④にしたい。

■4－5　発達支援センター管理運営費　：　①

■4－6　中心市街地活性化事業　：　②

委員：
　事前評価のコメントの2つ目に書いていただいていること（起業に繋がるストーリーの創出）が大事だと思う。総じて他の分野においてもどうなっていくのか、ストーリー自体が見えにくい。何かをやっているというだけではなくて、何を目指してどうなっていくのか、どう関われるのかが見えてきて、人が集まって参加していくのだろうと思う。何かやっているだけでは敬遠してしまう。なのでこのストーリーをつくって発信して知ってもらう、というのが大事。それは中心市街地活性化という目標においても、ストーリーの見える化が鍵だと示唆しつつ②とする。

■4－7　集落活性化支援事業　：　②

委員：
　中心市街地と対になっていて、コメントも同じことであろうと思う。

■4－8　市民協働推進事業　：　①

■4－9　小学校跡施設利活用推進事業　：　①

委員：
　割れているので座長意見も踏まえて決めたいが迷っている。現地を見て、お話も今日伺った結果、可能性がある気もするし、あまり可能性がないところはどうしていくのかというテコ入れや解決策を考えなければならない。

委員：
　美山町の場合は4地区あるが、ほとんど活発に使っている。

委員：
　積極的発言を踏まえ、①とする。

■4－10　小学校跡施設管理費　：　②

■4－11　森の京都推進事業　：　①

■4－12　国定公園推進事業　：　②

委員：
　少しアウトプットが少ない。

■4－13　アーティスト・イン・レジデンス事業　：　②

委員：

今日のヒアリングも踏まえて特に変わらないか。もっと見えるようになれば。

■評価の最後に

委員：

地域創生と働き方で全般的なことでも結構なので、意見を伺いたい。

委員：

今、私達働く者にとって、コロナ禍で大変な状況。私の職場はバス会社である。バス運転手はエッセンシャルワーカーであるが、コロナ禍で人の移動が止められているため、収益が非常に厳しくなっている。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金など様々な国支援がそれぞれ市町村に配られてはいるが。

今日お城の話が出ていたが、観光時に商店街でもバスが利用できただろうということも含めて、地域の公共交通網というのは非常に大きな痛手を負っている。そこへの支援にも結び付くようなことを考えていただけたら有難い。

また、出勤して仕事をしていたのが、テレワークや帰休という形でなるべく会社に行かない、人と接する機会が減っている。そんな非常に厳しい現状で働いている。そのことを一言だけご報告させていただきたい。

委員：

ありがとうございました。すっかり延長してしまったが、何とかご協力を得て2つ目の議事についても進んでいくことができた。

ここで事務局から今後の予定や報告案件について確認したい。

3. 報告（事務局）

■令和2年度に南丹市が新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して実施した事業について、参考資料を基に説明

委員：

ご説明有難うございました。こちらについては特によいか。

一同：特になし

5. その他（事務局）

■事務局からの連絡事項

・年度内会議は今回で終了の予定
・次年度4月以降に新任委員の選任および市民公募予定
・委員への御礼

6. 閉会（窪田委員）

結局、かなり延長してしまって申し訳ない。本来なら任期の切れ目でもあるので、皆様から一言ずついただいて締めていけたらと思っていたが、それは割愛したい。

私から一言だけ。皆様、大変ご協力いただきまして感謝申し上げたい。最初に西村市長がおっしゃっていたが、私も同じ感想で、こういう会に出ていてもまちごとに特徴が色々とある中で、南丹市はフレッシュな顔ぶれで活発な意見も言っていただいて私としては進行しやすく大変よかったと思っている。

私自身としては、第2期地域創生戦略をつくった時に非常に多くの人が参加して地域創生をつくるということと理解した。第1期の時は大学との連携というのがあったが、第2期では高校生にも目を向けて参加していってもらうことが重要ということで、YouTuber 養成講座などやっていた。懲りずに今年は「地域探求部」という活動をやろうということで、また園部高校と協力して取り組もうとしている。よかったらまた皆様にお声かけしたい。ゲストスピーカーを求めているようなので。折角様々なご経験をお持ちの皆様が揃っておられるので、一緒に何かできたらということを思っている。任期が終わっても引き続き地域創生にご関心を持っていただいて、皆様自身におかれても、ぜひ地域創生というのは行政だけでやることでもなく、民間でできることも色々とあると思うので、それぞれの仕事や生活の中でも地域創生をやって南丹市をよりよい地域に、ご自身も楽しみながら取り組んでいただければ嬉しいと思う。

では、来年またお会いできれば。またお会いできたら「この事業はどうなったのか」ということで取り組んでいきたい。事業をつくる時から意見を言わせて欲しいと言ったからヒアリングをやって意見を言ったのだから、それがどうなったのかということを引き続き見ていって、自身も何かやれることをやっていけたらと思う。ご協力にあたって感謝申し上げる。有難うございました。